

大学および学科便り



## 2023年度の藍野大学医療保健学部の歩み

医療保健学部 学部長 後藤昌弘

2023年度は【学生教育】【社会貢献】【学生募集】【研究推進】という通年業務に加え、公益財団法人大学基準協会による第3期機関別認証評価の受審、健康科学研究科の設置認可及び学生募集開始、2学部5学科1専攻科という新学部・新学科構想を進める申請書類を文部科学省に提出するなど、藍野大学医療保健学部には所属する全ての教職員にとって非常に多忙であり、大学の今後を左右する重要な一年となった。

まずは、10月初旬2日間にわたり実地調査が行われた認証評価について述べる。

今期の認証評価の中心課題は基準2である「内部質保証推進組織の構築とPDCAサイクルを用いた内部質保証システムの実質化」であった。「学生の学び」をサポートするために教育環境や設備は整っているのか、その環境下でどのような活動を行っているのかを問う基準1から基準10に関する質疑に対して内部質保証委員会構成員である各委員長が中心となり対応した。当初は、2018年度から2020年度までの自己点検・評価結果を中間報告書としてまとめ、外部有識者に提出し、その意見と改善策を合わせて自己点検・評価報告書として提出する予定であった。中間報告書を作成し、外部有識者に提出したものの報告書の完成度が不十分であったため、評価を頂くには至らない結果となった。これを執筆している12月現在、大学基準協会からの認証評価の結果は受けていないが、大学基準協会の基準に即した報告書を年度ごとに作成し、定期的な外部評価受審システムを構築することが現在の本学内部質保証の課題である。自己点検・評価の目的は「学生の学び」をサポートすることであり、大学基準協会の認証評価を受けることが自己点検・評価の目的になってはならない。2025年度から始まる次の第4期で重視されるのは「学修者本位の教育の実現」である。具体的には、①DPに示した力の獲得に向けた学生の学修進捗状況を把握しているか、②DPに示した力の獲得に向け実施した本学施策によってどの程度の改善が見られたのか結果を示しているか、③ネットワーク環境やICT機器の整備を促し、情報倫理の確立や学修をサポートするオンライン教育方法を図っているか、④学修者本位の教育を実施するために大学は大学の施設、組織、教育の方法、就職について学生と共に考える機会を作り、その改善結果を示しているか、⑤本学の特色ある取り組みである「シン・メディカル」を多方向から評価し、更なる発展を図っているか、⑥学外有識者の意見を適宜取り入れた自己点検評価を実施しているか、について問われる。まずは、内部質保証委員会が中心となり、毎年度末に作成している各学科・研究科のPDCA様式を用いた自己点検・評価と事業計画書・事業報告書に前述した①から⑥の対応策と改善結果をいかに組み込むか検討する。さらに、「DPに示した能力の獲得」に向け、現状の課題改善策について、学生の意見を聞く場面を設定する必要がある。

次に、藍野大学大学院健康科学研究科であるが、2023年10月31日に文部科学省より設置認可を受けることができた。この設置認可に向けては5年ほど前から「修士課程教授もしくは准教授〇合6名以上」を目指し、業績を重ね、教職員一体となり努力し、結果を得られたことに感謝している。新研究科では、認知領域と身体領域の両面から健康増進を科学的に探究し、「一生涯健やかに暮らしたい」そんな思いに寄り添う医療の専門家を養成する。第1期生の募集を2023年12月より開始しており、2024年4月に開講する予定である。

最後に、藍野大学の新学部・新学科構想であるが、本学は現在単科大学であり、医療保健学部の中に看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科の4学科が存在する。新学部構想では医療保健学部を医療保健学部と看護学部の2学部に分け、医療保健学部の中に理学療法学科、作業療法学

科、臨床工学科、そして新学科である健康科学科（仮称）を置き、看護学部の中に看護学科を置く。2023年11月、文部科学省に事前相談書類を提出した。また、臨床工学科に1年制の専攻科を設ける予定である。この申請が問題なく受理された場合は、2025年4月より藍野大学は2学部5学科1専攻、大学院2研究科として教育、研究、社会貢献活動を展開することとなる。2024年1月以降にでる文部科学省の回答を受け、順次対応していきたい。

## 2023年度(令和5年度)看護学科の取り組み

看護学科長 本多容子

2023年度(令和5年度)は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が5類へ移行し、4年ぶりに制限のない臨地実習を計画することができた。しかし、感染拡大が終結したわけではないため、実習先の感染状況に応じた柔軟な対応を取りつつ、学習機会を保障し教育の質を担保することに尽力した。

### 1. 教育活動

#### 1) 1年生

2020年度入学生より定員が115名となり今年度は127名の新入生を迎えた。新入生歓迎オリエンテーションでは、学科紹介、学習方法、上級生からのアドバイス等の後、「玉入れ大会」を開催し学生間の親睦をはかった。

初めての臨地実習となる基礎看護学Ⅰは、2024年2月下旬～3月上旬にかけて、1クール1週間で実施予定である。



写真：新入生歓迎オリエンテーションの様子

#### 2) 2年生

基礎看護学Ⅱを2023年12月に1クール2週間で実施した。

#### 3) 3年生

領域実習を8月下旬～2月上旬で、順次、成人看護学実習Ⅰ(3週間)、成人看護学実習Ⅱ(3週間)、老年看護学実習Ⅰ(1週間)、老年看護学実習Ⅱ(3週間)、母性看護学実習(2週間)、小児看護学実習(2週間)、精神看護学実習(2週間)、在宅看護学実習(2週間)を実施した。感染症で一部延期となることもあったが隣地での実習を実施できた。

#### 4) 4年生

##### ◎統合看護学実習

6～7月に、2週間の臨地実習を実施した。

◎公衆衛生看護学実習 I、II を実施した。

◎教育実習を各実習受け入れ校で順次実施した。

◎藍野大学×摂南大学「卒業前フォローアップ研修」

2024年3月14日に「卒業前フォローアップ研修」を今年度も開催予定である。



写真

昨年度(2023年3月)開催の様子

※梅花女子大学と合同開催

#### 4) 国家試験対策

過去の反省から2021年、2022年度は国家試験対策に力を入れ、看護師国家試験合格率100%を達成した。今年度も引き続き保健師・看護師国家試験全員合格を目指して、早い時期から学習支援に取り組んできた。適宜面接を実施、必要時は保護者にも連絡し、協力をお願いしながら支援にあたった。特に学習成果の思わしくない学生を対象とした支援に力を入れ、少人数(5名前後)での対面指導を実施した。心配な学生は教員が1対1または1対2~3で終日個別指導を行った。年始年末期間中も、zoomで個別指導を行い、被災地(2024年1月1日発生の令和6年能登半島地震)からzoom指導を続けた教員もいた。2月9日に保健師国家試験、同11日に看護師国家試験を全員が受験した。

## 2. 研究活動

本年度も多くの教員が科学研究費助成をうけ研究に取り組んでいる。その他、学内外の研究助成金の獲得など研究活動に意欲的に取り組んでいる。さらなる研究活動の活性化を目指し、若手教員の研究支援に力を入れていきたい。

### 3. 実習協力病院への臨床研究支援

臨床からの要請をうけ、臨床研究指導を実施した。

#### ①医療法人恒昭会 藍野病院 ※別途報告有

- ・研究方法の講義
- ・グループ別の研究指導（研究計画立案～まとめ）
- ・学会発表

#### ②京都済生会病院

- ・グループ研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

#### ③徳洲会吹田

- ・研究方法の講義
- ・研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

#### ④京都桂病院

- ・研究方法の講義
- ・グループ研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

### 4. 社会貢献活動

◇第15回日本医療マネジメント学会 開催運営ボランティアに学生引率°

日時：5月13日(土)7:30～17:00

内容：開催運営ボランティアとして、学生が受付・誘導の担当を行った。

場所：大阪国際交流センター



◇託児ボランティア

日時：5月20日(土)9:30～12:30

7月8日(土)9:30～12:30

場所：茨木市立障害福祉センター・ハートフル

内容：支援学級・通級支援を受けている小中学生のこどもを育てる保護者会時の託児ボランティア

◇令和 5 年度文部科学省 助成事業『大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築』運営スタッフ

日時： 9月 1日(金)9:00～17:00

10月15日(日)9:00～17:00

12月16日(土)9:00～17:00

内容：オープンカレッジに参加する小児がん経験者、重症心身障害児らの、学習参加へのサポート。

備考：令和 5 年度文部科学省 大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築 事業 「小児期に発症した医療的ケアを必要とする重度重複障がい者や小児がん経験者である AYA 世代の生涯学習ー「生きる体験」を目指しー」代表：大阪教育大学、協力：藍野大学など

◇「第 7 回スペシャルキッズサポーターの集い」運営スタッフ

日時：2023 年 3 月 12 日(日) 8:00～17:30

場所：エル・大阪

内容：受付や案内、ワークショップのサポート

※ 2023 年度（2024 年 3 月 16 日）は藍野大学で開催予定



写真：左・中央 スペシャルキッズ  
右 託児ボランティア

◇2023 いわてこどもまつりチャレンジ DAY ナース体験おしえてナース先生

日時： 8月 26日(土) 10:00～12:00

場所：高槻市立磐手公民館

内容：ナース服体験、聴診器体験、赤ちゃんの着替え体験

◇レビー小体型認知症カフェ・勉強会/ご本人とご家族の交流会

日時：毎月第 3 土曜日 13:00～15:00

場所：本学 MLC 棟 カフェ

内容：レビー小体型認知症のご本人・ご家族の交流

◇藍野まちの保健室

日時：5月21日(日)10:00~16:00

場所：藍野病院

内容：転倒予防のための足指力測定と転倒予防指導 ※藍野病院からの依頼で参加



写真：

右上下 レビー小体型認知症カフェ

勉強会とカフェの様子

左上 いわてこどもまつり

左下 藍野まちの保健室

5. まとめ

次年度以降も、さらなる教育の質の向上を目指していきたい。また各教員の研究支援のほか、学科としての社会貢献活動の活性化にも取り組んでいきたいと考える。

## 2023年度の理学療法学科の取り組み

理学療法学科 学科長 寺田 茂

2023年の理学療法学科の取り組みについて1年間を振り返り報告する。

2023年は、三年以上続いたコロナ禍が指定感染症法上の2類から5類へと引き下げられたことによりようやく終焉し、当たり前の日常を取り戻しつつある一年となったように思う。感染拡大の当初は、社会が混乱を極め、大学での授業も対面からWebに変更されて学生も登校制限を余儀なくされた。その後、ワクチンや経口薬が開発されるにしたがい、学校生活も徐々に以前の様相を取り戻してきた。構内でのマスクの着用は任意となり、少しずつ以前の学校風景が戻ってきたと実感できるようになった。

しかし、医療現場では厳格な感染管理が続いている施設もあり、学生教育においては、理学療法士教育の総決算となる総合臨床実習は、中断を余儀なくされるケースもあった。そのような状況の中でも、2020年度入学生から適用されている「理学療法士、作業療法士養成校新指定規則」によって、必須化された「地域リハビリテーション実習」が完遂することができた。これは、実習に協力いただいた多くの病院・施設、患者様や利用者の方々への理学療法士教育に対する理解や善意の賜物であり、この場をお借りして感謝の意をお伝えさせていただきます。

社会貢献については、藍野大学の認知度向上と帯同する学生の実践教育を目的に、茨木市との連携事業を推進した。内容としては、担当課と連携しての茨木市太田地区身体測定会を11月に実施し、約40名の地域住民の方々に参加を頂いた。また、全学的な取り組みとしての茨木市藍野大学連携講座の開催等が実施された。

また、学術活動については、大学の認知度向上、外部資金獲得と若手教員および学生に対する研究指導の強化を目的に、個々の教員が各専門分野で積極的な研究活動を行った。その結果、学科教員が筆頭著者の投稿論文数は10本（英語論文4本、日本語論文6本）となり、学会発表は、25演題（国際学会6題、国内学会19題）の報告がなされた。

その他の取り組みとして、卒業生や臨床実習でお世話になっている施設のスタッフを対象とした「藍野理学療法学科交流会」を2回開催した。第1回目は、2023年11月にテーマを『スポーツ損傷の理学療法 - 治療と予防』とし、小柳先生をお招きし開催し、参加人数は40名、内容はすぐに臨床応用が可能な実践的講義で参加者からは好評であった。第2回目は、JSMT（日本徒手療法学会）とコラボしてテーマを「Understanding and management of nociceptive pain : 痛覚変調性疼痛の理解と管理」とし、講師にRob Stanborough（University of St. Augustine for Health Sciences）をお招きして行った。内容は、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛の器質的疼痛の他に、非器質的疼痛として「Nociceptive pain」について解説し、今回は特に「痛覚変調性疼痛」に焦点をあて、その理解と管理についての講義と実技セミナーであった。

次年度以降も「教育」「社会貢献」「研究」の各分野において、所属教員が一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

## 2023 年度の作業療法学科の取り組み

作業療法学科 学科長 酒井 浩

2023 年は新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、日本には海外からの観光客が大量に来訪し、大阪や京都では海外からの観光客であふれる光景が頻繁に見られるようになりました。一方で、医療機関においては新型コロナウイルス感染症による影響が継続し、患者数の増加と減少が繰り返されました。前年と比べて、臨床実習はコロナ感染を理由とする中止事由は激減しましたが、一定の影響が残存していました。

国家試験においては、前年度に試験対策プログラムを大幅に見直し、3 年生 1 月から講義形式の基礎対策セミナーを実施し、3 年生 3 月には国試対策グループ学習を開始しました。グループワークでは、過去問の中から毎日 15 問を振り分け、グループ内で問題を割り振ったうえで、各選択肢が正しいか否かだけでなく、その理由を他者に解説してもらう形式としました。解説にはホワイトボードを使用し、知識を視覚化し、その視覚化したイラストをもとに解説してもらい、さらに要点を整理して、効果的な覚え方を教示してもらいました。これは心理学的根拠としてラーニングピラミッドを用いており、記憶定着効果が高い視覚化、デモンストレーションを駆使して、「他者に教える」という方法を重要視したもので、心理学的には「他者に教える」ことで記憶の定着率は 90%を超えると考えられています。課題となるのは、教示する内容のクオリティの部分であり、学生に任せてしまうと、クオリティの低い内容で留まってしまいますが、教員がグループを回り、クオリティを調整することで、高いクオリティでのグループ学習が可能になったと考えています。このような教員の役割により、教員の負担が大幅に増加することが危惧されましたが、4 年生後半になると学生のみで同等のクオリティが維持できることがわかりました。2022 年度は、この方法により国家試験合格率 100%を達成し、2023 年度についても、前年度と同等の方法を用い、外部模擬試験の平均値は過去最高点を更新する結果となっており、その成果としての今年度国家試験結果が待たれるところです。

入学定員充足については、2021 年は定員を割り 37 名、2022 年はどうにか定員を満たし 40 名、2023 年は 45 名と復調の兆しを見せたものの、2024 年入試は苦戦を余儀なくされています。入試志願者の減少は全国的な課題であり、2024 年入試では高校 3 年生の母数をもっとも少なくなる年とされ、大学のすべての学科が一丸となって志願者確保に力を注ぎました。作業療法学科では「保育師国家試験」を卒業までに受験するための科目として「保育学入門」を設置し、高校訪問を積極的に行いました。しかしながら、高校訪問の時期が 12 月となってしまう、思ったようには効果が出ずに、定員充足が厳しい状況となっています。前述した新たな国家試験対策プログラムは成功し、国家試験合格率は高水準で安定化が望めるものの、入学定員充足への取り組みは深刻な状況に直面し、今後も継続して強化していかなければならず、作業療法学科における最重点課題であると考えています。

2023 年は、新型コロナウイルスの臨床実習に対する影響が減少し、安定した臨床実習を行えるようになりました。また、新たな国家試験対策プログラムは 2 年目を迎え、効果的であることを証明する結果となることが十分に期待され、加えて、待望のリハ系コースを含有する藍野大学大学院健康科学科の設置ができ、その入学者定員も充足の見通しがたっています。一方で、入学者定員充足には非常に深刻な課題が示されることとなり、2024 年度は大学および学科が一丸となり、このような局面を乗り越えていかなければならないと考えています。

## 2023 年度の臨床工学科の取り組み

臨床工学科 学科長 五十嵐 朗

2023 年度の臨床工学科の取り組みについてその概略を報告する。

まず教育については、5 月下旬に待望の模擬手術室が完成し、香川大学医学部附属病院・臨床工学部の技士長を招き、7 月 26 日に麻酔補助業務に関する特別講演を在校生向けに実施するなど、タスクシフトによる業務拡大へ対応するための教育環境の整備を進めている。タスクシフト関連では、次年度以降も学内での内視鏡関連の実習や現 2 年生に対する在学中の告知研修実施などを継続的に検討していく必要がある。また臨床実習については、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行してから最初の実習となったが、本学科の実習先の医療機関の協力や臨床系教員の尽力もあり、9 月末までに全ての対象学生の臨床実習を終えることができた。さらには 2023 年度入学生から学習に対するモチベーションを高めること、病院における臨床工学技士の重要性や役割を認識することを目的として、従来から行ってきた「国際くらしの医療館・神戸(医療機器や設備の見学)」での見学実習に加えて、早期臨床体験実習(Early exposure)を吹田徳洲会病院(臨床工学に関連する部門)で実施した。さらには 4 年次の臨床実習が間近に控えた 3 年次の学生達にも臨床現場の雰囲気を感じてもらうために病院見学を実施し、学内実習から臨床実習へのスムーズな移行が出来るような環境作りを行った。

学生募集については、新たに整備された模擬手術室を軸として、X(旧 Twitter)や TikTok 等の SNS 媒体による広報を積極的に進めることで、オープンキャンパスへの参加者は前年度を大きく上回る来場者数となった。また、近畿圏以外の臨床工学技士の養成校として大学が無い空白地域(山陰地方など)、県内に養成校にあることで進路指導部の先生方に臨床工学技士に対する知名度が高い北陸地方への高校訪問を行った。さらに地方からの志願者を増やすための施策として、大学病院等の地域の基幹病院を臨床実習先として確保することで U ターン就職への道筋をつけ、地方出身の受験生確保の試みを進めている。入試制度の改革としては、新たに「臨床工学体験型選抜入試」を導入することで、年内入学者の確保を早い時期に行えるようになった。今年度は、臨床工学体験型選抜入試の初年度ということもあり、入試内容の広報遅れ等の反省点もあり、次年度以降の学生募集にこれらの点を改善していきたいと考えている。また減少していた指定校入学者数が回復したが、前年度に引き続き定員確保には苦戦する状況が続いており、受験生確保のためにさらなる取り組みを行う必要がある。新設した模擬手術室やニプロ株式会社 iMEP での手術実践実習などの本学科の特色、臨床実習先である大学病院や公立病院に多数在籍している就職状況等の強みを前面に出して入学者確保に向けて広報活動を行う予定である。

2023 年度は模擬手術室の完成や新入試導入により、新たなるスタートを切った最初の 1 年であったと総括する。

## 2023 年度 看護学研究科の取り組み

看護学研究科長 西上あゆみ

大学院は「実践看護分野」として「成育看護学」「高齢者看護学」「精神看護学」「災害看護学」を、「看護マネジメント分野」として「地域保健看護学」「看護管理学」「感染看護学」と2つの柱と7領域から成り立っている。2023年度は8名の入学生を迎えた。入学生の背景は、5名が病院で勤務している看護師、2名は看護教育機関で勤務、1名は学生専任であった。院生総数18名とこれまでで一番多い学生数を抱えることになり、一層、活気のある看護学研究科となった。

入学生の募集について、学部のオープンキャンパスと同日に大学院の相談ブースを作成しており、広報をみて問い合わせる学生も増えた。2023年度も12月に開催の大阪府看護協会学会で学会ホームページへのバナー広告、会場では大学院ブースを出展した。150名の方にリーフレットを配布したが、大学院への進学希望の声も多く聞かれた。7月看護学科開催の実習施設との意見交換会や、研究科教員が近隣の看護協会等で特別講義を引き受ける時に大学院の紹介を行った。大学卒業でなければ、大学院に入れないと考えている看護師がまだまだ多く、出願資格認定審査の制度について丁寧に紹介するようにした。2023年度の入学生の獲得に関しては、関連施設や在学学生、修了生を通じて入学希望学生の紹介をうけることもあり、予定していた2回の入試で定員以上の入学生を確保することができた。入学希望者を見ると、4年制設置前の藍野短期大学部からの入学生も増えてきているようである。しかし、2024年度入学生の獲得に関しては、予定の2回の入試では定員数をみだせず、3回目を2024年3月に計画した。2024年度の入学時の面接試験に関して、ルーブリック評価を開始した。

教育実践について、コロナ禍となってから、時期や学生の希望に応じてWEBでの遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業を展開するようになり、今年度も組み合わせの授業が行われた。しかし、どちらかという対面の授業のほうの要望が高いと感じている。今年度も学生の要望を取り入れ、週末や夜間帯の授業が中心となった。引き続き学生の希望に応じて、臨機応変な体制を取っていきたい。

2023年4月21日、例年どおり、修士論文を提出する予定学生の研究計画発表会が行われた。その後、6月～7月の本学の研究倫理部会において各自が研究計画の審査を受け、研究を進めた。加えて、2022年度より秋季の研究計画発表会を開催することとなった。昨年度の研究科委員会では3年コースの学生用として検討されたことであったが、学生の研究内容によっては2年コースの学生も秋季に発表をさせたいという要望が指導教員からも出たため、規制をかけないこととした。これにより11月15日の発表会では、6名の学生が発表を行った。

今年度より学位審査基準において、評価の仕方を見直し、修士論文審査、最終試験採点表の両方にルーブリックを取り入れることとし、研究科委員会で審議した。学生からの要望には、学年歴を早めに確定してほしいとあり、次年度には対応するよう準備した。FD活動については、近年の災害の頻発に備え、大学の危機管理マニュアルの見直しも進められていることから『災害と研究』として研究科長西上あゆみが講演を行った。次年度に本学が一般社団法人日本災害看護学会第26回年次大会を開催することから、教育における「災害看護」や看護における災害看護学の発展について紹介する機会となった。

新たな取り組みとして、教職課程（養護教諭）の専修免許、助産課程の設置に関する準備を進めた。学部では養護教諭の免許取得ができることから、大学院で専修免許を取得できることで卒業生の学び直しとして、大学院への入学者確保につながると考えた。さらに助産師免許については学部生や卒業生より一定の希望があることからこれも入学者確保につながると考え、設置を計画した。

2022年度より大学院に関しても修了生の中から優秀学生への表彰が行われることとなった。また、

2023年2月14日行われた修士論文発表会では、4月からの入学予定者や学外からの参加者にも広く公開をした。

大学院生の研究活動について、3名の学生が研究計画書作成時に行った文献レビューを2つの学会で3題発表した。1) 病院に勤務する看護師の災害対策に関する意識調査の研究の動向(日本災害看護学会第25回年次大会)、2) 災害発生時の病院看護師の参集に関する研究の動向(同年次大会)、3) がん患者への防災教育に関する研究の動向(第29回日本災害医学会総会学術集会)である。

教育・学習環境については、今年度も学生より希望を聞いて、SPSSの導入をするなど、学習環境整備に努めた。学生数が増えるについて、研究室も手狭となってきており、今後も検討を重ねたい。また、下記の資料に示すように修了生や関係者を含めた研究会(通称ANA会)を企画、4月より月1回程度で開催し、大学院生間の交流に努めた。大学院入学後に本格的に研究を始める学生も多く、修了生や先輩から研究の進め方を教わったり、学会発表の予行としたり、情報交換の場となっている。

博士後期課程開講に関して計画はあげているものの、今年度も現在開講している分野の教員の補充に難渋することもあり、しっかりと取り組みができていないといえない。次年度より開設される健康科学研究科との連携の下、今後も設置に向けて取り組んでいきたい。

### 2023年ANA会(2023年4月発足)

現在参加者：11名(2023年12月現在)

開催月日と内容

第1回	4月16日 13:00 - 16:00	①国内の看護系学会の紹介 ②日本災害看護学会提出の抄録の発表会 ③実施予定のアンケート調査の検討
第2回	5月14日 13:00 - 16:00	①防災フォーラムの参加報告 ②現在取り組んでいる文献に関する報告
第3回	6月17日 14:30 - 16:00	研究計画書の書き方
第4回	7月15日 13:00 - 16:00	学会発表について
第5回	9月24日 13:00 - 16:00	①学会参加報告 ②ぼうさい国体参加報告
第6回	10月22日 13:00 - 16:00	①修士課程学生の研究計画発表会予行 ②病院の防災に関するシミュレーション研修 ③国家試験と災害看護
第7回	11月23日 13:00 - 16:00	①日本看護科学学会発表予行 ②「稲村の火の館」見学報告 ③アンケートの作成方法 ④在宅ケア学会参加報告
第8回	12月17日 13:00 - 16:00	①日本看護科学学会参加報告 ②文献整理 ③文献レビューの作成
第9回	1月27日 14:30 - 17:30	阿倍野防災センター見学
第10回	2月4日 13:00 - 15:00	①修士論文発表会予行 ②日本災害医学会発表予行
第11回	3月	修士課程学生の研究計画発表会予行

## 藍野大学 中央研究施設

藍野大学中央研究施設 施設長 栗原秀剛

### 人的構成

構成員	氏名
施設長	栗原秀剛（副学長、理学療法学科 特任教授）
学内研究員	山田義博（理学療法学科 教授） 田浦晶子（臨床工学科 教授） 稲盛修二（臨床工学科 教授） 山崎康祥（臨床工学科 准教授） 宮本陳敏（作業療法学科 講師） 塚越千尋（作業療法学科 講師） 林部美紀（作業療法学科 特任講師） 横山雛子（看護学科 助手） 三木志帆（実験補助技術員） 斎藤直美（実験補助技術員） 藍野大学の学生：臨床工学科 9名、理学療法学科 1名
客員研究員	井出千束（びわこリハビリテーション専門職大学 教授） 山田久夫（びわこリハビリテーション専門職大学 教授） 中野法彦（びわこリハビリテーション専門職大学 教授） 兼清健志（びわこリハビリテーション専門職大学 准教授） 安部征哉（びわこリハビリテーション専門職大学 講師） 長井雅代（中央研究施設客員研究員） 玉地雅浩（中央研究施設客員研究員）

### 研究活動

中央研究施設は、藍野大学を中心に、びわこリハビリテーション専門職大学を含む学校法人藍野大学全体の研究活動を推進・発展させる拠点として活動している。藍野大学中央研究施設は医学部を除いた医療系大学では珍しく電子顕微鏡など大型の機器が充実しているのが特徴である。本年度より新施設長のもとで、開設から経年劣化が進む設備について継続的な使用を可能とするためのインフラ整備を行っている。また、大学全体の研究活動の拠点として明確に位置づけるため、学内教員、客員研究員との共同研究はもとより、学部学生の卒業研究指導等を積極的に行った。

#### （1）共同研究施設としての体制の整備と機能の推進

中央研究施設は、大学で唯一の実験研究施設として本学並びに関連施設の教員・医師および学部学生に実験の場と研究機器を提供し、優れた研究成果を生み出すことを目的として活動している。また、共同研究を推進しており、学会や国際誌も含めた論文発表、科研費も含めた競争的資金の獲得、産学連携も含めた外部資金の導入、特許取得などの成果をあげている。本年は、動物施設の適正な環境整備のため、環境制御飼育装置エバック L の大規模な保守点検を行った。

(2) 研究施設独自の研究の推進

研究に関する今後の展望としては、臨床に直結したトランスレーショナルリサーチを推進し、国内のみならずグローバルに通用する最先端の研究を実践している。

**主な研究内容**

- (1) オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究
- (2) Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御
- (3) 腎臓に発現する新規分子の解析
- (4) 脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の確立

**「2022 年度 中央研究施設シンポジウム」開催**

日時：2023 年 3 月 6 日

場所：MLC F201 アクティブコモンズ

2022 年度より設けられた「優秀研究賞」「研究奨励費」の採択者、および科研費新規獲得者を中心に 11 名が講演を行った。学長、学部長も出席され、ご挨拶をいただいた。午前、午後の長時間に渡り行われたが、総勢 39 名の来場者があり、質疑応答が行われた。

安藤 卓	研究奨励費	高齢者における抑うつ症状を予防する活動量基準の作成
藤本 智美	優秀研究賞	The influence of coping types on post-traumatic growth in patients with primary breast cancer (原発性乳がん患者の心的外傷後成長に対するコーピングタイプの影響)
熊部 翔	科研費 新規取得	超音波画像診断装置を用いた中間広筋の効果的なトレーニング方法の検討
山田 義博	Scientific Reports 掲載	LM02 転写因子複合体による血管新生制御
中田 裕二	研究奨励費	次世代シーケンサーを用いた薬剤耐性菌の分子疫学解析
田中 貴広	研究奨励費	Interval cryotherapy が筋力トレーニング、パフォーマンス、遅発性筋痛に与える影響
梅田 英子	科研費 新規取得	1 型糖尿病患者の療養と社会生活の両立を支援するソーシャルサポートの開発と評価
福山 友見	科研費 新規取得	日本人アスリートのスポーツ損傷における発症頻度の個人差に遺伝子多型が及ぼす影響
大和 洋輔	優秀研究賞研究奨励費	下腿三頭筋に対するスタティックストレッチングが後脛骨動脈の血流量に及ぼす影響

真下いずみ	優秀研究賞	Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness: A Multicenter Randomized Controlled Trial 生活行為向上マネジメントを用いた訪問作業療法による重度精神障害者の社会機能改善効果—多施設共同ランダム化比較試験
松本 晃子	研究奨励費	看護学生から新人看護師への役割移行の実態

## 研究成果 (抜粋)

### 論文

- ・Yoshikawa K, Kunishima S, **Kurihara H**, Takahashi K, Fukuda A, Murai K, Echizenya T, Nakaya I, Soma J: Renal injury associated with MYH9 disorder with 5773delG mutation: a case report Clin Nephrol 99(3):153-160, 2023
- ・Takahashi K, **Kanekiyo K** (equally contribution), Sakuda K, Muto Y, Iguchi M, Matsuda N, Hashimoto Y, Kanai K, Ogawa H, Hirase H, Kakita A, Bizen N, Takebayashi H, Kawaguchi Y, Uzuki M, Kitazume S. Brain-specific glycosylation of protein tyrosine phosphatase receptor type Z (PTPRZ) marks a demyelination-associated astrocyte subtype. Journal of neurochemistry, 166(3):547-559, 2023.4
- ・**Nagai M**, Kaji H. Thermal Effect on Heat Shock Protein 70 Family to Prevent Atherosclerotic Cardiovascular Disease. Biomolecules 2023, 13, 867. <https://doi.org/10.3390/biom13050867>
- ・**TAURA A**, OHGITA H, FUNABIKI K, SUJI J. A study of the head positional nystagmus in a PPPD case successfully treated with SSRI and vestibular rehabilitation (a case report) AINO JURNAL: 2022. Vol.20:11-16
- ・高畑脩平, **塚越千尋**, 江尻知穂, 松本康志, 津田勇人. 視機能の専門家と作業療法士の協働～「見る」ことに問題を抱える2事例を通して～ 大阪 OT ジャーナル 2023 ; 37 (1) : 33-39
- ・高田昌寛, 阪上奈巳, 熊部翔, 青山宏樹, **塚越千尋**, 山科吉弘. キャンパス内における障がい者の働く場所と学生がつながる仕組みの創出. 地域理学療法学, 2023; 3: Online ISSN : 2758-0318
- ・森田真美, **田浦晶子**, 伊藤通子, 宮崎眞和, 辻純, 嘉田真平, 安里亮. 喉頭蓋顆粒細胞腫例. 耳鼻咽喉科臨床 ; 2023 年 116 巻 6 号 p. 593-599
- ・**中野法彦**, **兼清健志**, **井出千束** : 脊髄再生のメカニズム、細胞、55 (10)、810-812、2023
- ・**井出千束**, **中野法彦**, **兼清健志**, **安部征哉**, **塚越千尋**, **宮本陳敏**, **玉地雅浩**, **横山雛子**, **林部美紀** : 脊髄の再生—再考—、びわこ健康科学、1 巻、11-17、2022 (12 月 28 日公開のため 2022 年度には未掲載)

### 学会発表等

- ・**Yamada Y** : The basic helix-loop-helix transcription factor LYL1 stabilize the tumor blood vessel. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (Yokohama)

September 21-23, 2023

- ・ Ejiri C. Luo Z. **Tsukagoshi C.** Nagao T. Tanemura R. The Characteristics of the Alpha/Beta Ratio in Patients with Fatigue after Traumatic Brain Injury in Relation to Workload. INS Taiwan Meeting, Taipei, July 7
- ・ Wakashima H, Kishino K, Iizuka S, **Tamachi M.** Wesugi S. Design of Wearable Tensegrity Structures Focusing on the Tension Propagation Function throughout the Body. Proceedings of the Design Society, 3. P.1287-1296, (2023.7.27)(Bordeaux in France)
- ・ Nakanishi E, **Tamachi M.** Hashimoto T. EFFECTIVENESS OF STIGMA REDUCTION PROGRAM THROUGH CO-PRODUCTION WITH DIALOGUE IN HEALTH SCIENCE STUDENTS AND PERSONS WITH MENTAL ILLNESS. 23rd WPA World Congress of Psychiatry.(2023.9.28) (VIENNA, AUSTRIAVIENNA, AUSTRIA)
- ・ **Miyamoto C.** Application of SI in ASD: Occupational Therapy Perspectives (ASDにおけるSIの応用:作業療法の展望) . 2023 The 4th Interdisciplinary Public welfare forum on Autism Spectrum Disorders (Online Conference, Chengdu, 2021.4. 20)
- ・ **Miyamoto C.** Trends in stroke rehabilitation treatment in Japan (日本の脳卒中リハビリテーション治療の動向) 2023 China Guangdong Stroke Non-acute Rehabilitation Forum (Online Conference, Shenzhen.2023.12.2)
- ・ 紅林秀治、**山田久夫**: 折り紙における手指の関節の動きの調査. 第28回基礎理学療法学会, 広島 2023年12月3日
- ・ 高田昌寛, 阪上奈巳, 熊部翔, 青山宏樹, **塚越千尋**, 山科吉弘. キャンパス内における障がい者の働く場と学生がつながる仕組みの創出. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2023.7.2,一般口演 127
- ・ 江尻知穂, 羅志偉, **塚越千尋**, 長尾徹, 種村留美. 頭部外傷者における作業負荷時の易疲労・ストレスの特徴—疲労可視化と易疲労コントロールのための予備的研究— 第57回日本作業療法学会, 沖縄, 2023.11.11, 口述発表 OK-3-5
- ・ **安部征哉**, 権野めぐみ, 野村照夫, 来田宣幸, 森原徹. 足趾動作の定量的評価による足趾機能評価の可能性 第34回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (横浜) 2023.10
- ・ **田浦晶子**, 大西弘恵, 西村幸司, 扇田秀章, 伊藤壽一, 大森孝一. ヒト内耳オルガノイドを用いた前庭再生への試み. 第22回日本再生医療学会、京都、2023年3月24日
- ・ **田浦晶子**, 扇田秀章, 西村幸司、伊藤壽一. 内耳前庭における血管新生と低酸素応答についての検討. 第82回日本めまい平衡医学会、新潟、2023年10月26日
- ・ **玉地雅浩**. 歩き続けるために生み出される身体の変容について -哲学と脳科学及び神経生理学の観点から-. 第42回日本医学哲学・倫理学会(2023.10.14)(上智大学, 東京)
- ・ 井上寛介, 青木芳樹, **玉地雅浩**, 上杉繁. 触圧覚刺激法に着目した運動機能向上のための肘関節を対象とする実験的装置の開発. スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2023 (2023.11.12)(名城大学, 名古屋)
- ・ 青山凌太, 玉木 岳, **玉地雅浩**, 上杉繁. 歩行時における下肢動作の支援を目的とした装着型テンセグリティ構造体の開発. スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2023 (2023.11.12)(名城大学, 名古屋)

- ・中西英一、玉地雅浩、橋本健志. 対話・共同創造プログラムの作業療法学科学生と精神障害者に対するスティグマ低減効果. 第 57 回日本作業療法学会 (2023.11) (沖縄コンベンションセンター)
- ・玉地雅浩. 脳卒中やパーキンソン病を発症した方の知覚世界を、哲学、生態心理学、医学、認知科学を基に考察する. 第 4 回ヒューマンパフォーマンス研究所シンポジウム, 日本科学未来館, 2023.5.13.
- ・宮本陳敏. 地域在住高齢者における呼吸機能と握力の関係. 第 57 回日本作業療法学会 (沖縄、沖縄コンベンションセンター、2023. 11.10 - 12)
- ・宮本陳敏. 外国籍の生徒のご家庭に適切に対応していただけるためには. 大阪府立西淀川支援学校, 2023.8.30
- ・宮本陳敏. 母国の働く文化と日本の働く文化の違い. OFIX 外国人材を受け入れ企業向けの研修、マイドームおおさか、2023.9.7
- ・森本康一、兼清健志、中野法彦、國井沙織、永井宏平、尾前薫、井出千東、宮本裕史：ラット脊髄挫滅モデルでの細胞低接着性コラーゲン埋植による組織修復再生機能の検証、第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会、札幌コンベンションセンター (札幌)、令和 5 年 4 月 13-15 日 (一般口演)
- ・中野法彦、兼清健志、森本康一、國井沙織、永井宏平、井出千東、宮本裕史：ラット脊髄損傷モデルにおける細胞低接着性コラーゲン注入による組織再生の検討、第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会、つくば国際会議場 (つくば)、令和 5 年 10 月 19-20 日 (ポスター)

#### 新聞、雑誌、放送等

- ・玉地雅浩. なぜできないのかを考えることも大事ですが、なぜできるのかについて考えることも同じくらい大切です. PT ジャーナル 2020 ; 54(7) : 828.

### 中央研究施設管理運営委員会

#### 構成 (令和 5 年度)

栗原秀剛、中田裕二、山田義博、宮崎浩、田浦晶子、宮本陳敏

#### 令和 5 年度 委員会開催日

	開催日	審議事項
第 1 回中央研究施設管理運営委員会	2023 年 8 月 7 日～8 月 9 日	・ 2023 年度第 2 次補正予算について
第 2 回中央研究施設管理運営委員会	2023 年 12 月 5 日～12 月 8 日	・ 2024 年度中央研究施設予算について ・ 新たに提出された「利用登録申請書」について

### 動物実験部会

#### 構成 (令和 5 年度)

栗原秀剛、中田裕二、山田義博、田浦晶子

令和5年度部会開催日

	開催日	審議事項
第1回動物実験部会	2023年5月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度動物実験報告書、および自己点検票について</li> <li>・「動物実験計画書」の書式変更について</li> </ul>
第2回動物実験部会	2023年5月17日～5月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追加申請のあった「動物実験計画書」1件の審議</li> </ul>
第3回動物実験部会	2023年11月20日～11月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出された「動物実験計画(変更・追加)承認申請」1件の審議</li> </ul>
第4回動物実験部会	2023年12月4日～12月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中央研究施設使用細則」の変更について</li> <li>・「動物実験規程」の改訂について</li> </ul>

承認された研究課題 (2023)

承認日	研究課題名	実験責任者	備考
2023年 3月28日	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	兼清健志	更新
2023年 3月28日	終系上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	井出 千束	更新
2023年 3月28日	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	山田義博	更新
2023年 3月28日	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	中野法彦	更新
2023年 3月28日	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	宮本陳敏	更新
2023年 3月28日	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	山崎康祥	更新
2023年 3月28日	オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究	田浦晶子	更新
2023年 3月28日	微小重力環境における内耳に関する研究	田浦晶子	更新
2023年 3月28日	内耳再生に関する研究	田浦晶子	更新
2023年 3月28日	Lmo2 転写因子複合体による内耳血管新生制御に関する研究	田浦晶子	更新
2023年 3月28日	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動機能と形態学的分子生物学的効果の検証	林部美紀	更新
2023年 3月28日	腎臓に発現する新規分子の解析	栗原秀剛	新規

2023年 3月28日	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	稲盛修二	更新
2023年 3月28日	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテーションの有効性の検討	塚越千尋	更新

#### 動物使用数

年度	ラット	マウス	合計
2022年	158匹	136匹	294匹

#### 動物実験講習会の開催

##### 第28回 動物実験講習会

開講日：2023年3月3日

参加者：9名

##### 第29回 動物実験講習会

開催日：2023年3月7日

参加者：12名

##### 第30回 動物実験講習会

開催日：2023年3月15日

参加者：4名

##### 第31回 動物実験講習会

開催日：2023年12月14日

参加者：12名

## 実験動物慰霊祭の举行

昨年に引き続いて実験動物慰霊祭を举行した。

举行日：2023年11月13日

出席者：佐々木恵雲学長、栗原秀剛施設長、田浦晶子教授、山田義博教授、稲盛修二教授、井出千束教授、中野法彦教授、兼清健志准教授、宮本陳敏講師、安部征哉講師、横山雛子助手、三木志帆実験補助員、臨床工学科4回生5名

- 一、 開式の辞
- 一、 学長挨拶                    藍野大学 学長 佐々木恵雲
- 一、 黙祷
- 一、 慰霊のことば              藍野大学中央研究施設長 栗原秀剛
- 一、 献花
- 一、 閉会の辞



## 藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターの取り組みとこれから

大阪茨木キャンパス事務局  
事務局長 小林 正明

2023年度、AINO VISION 2030 REPORT Vol2 のロードマップに示された各設置校の取り組みが確実に進められている。藍野大学においても健康科学研究科の設置認可、3学部改組転換及び新学科設置計画は、文部科学省への事務相談を踏まえ検討を進める中で、2学部への改組に向けた検討を進めている。また、大学基準協会による認証評価においても教職協働による取り組みの大きな成果として適合の評価を受けることができた。

学生募集においては、大学全体としてオープンキャンパスでは一定の参加者があったものの志願者数の減少がみられ、合格者の歩留まりについても例年と異なる状況があった。

近畿圏の同系統の学部・学科を有する他大学においても同様の状況があり、近畿圏において医療系の大学（学部・学科）の厳しい状況が続く。

昨年度からの学生募集の取り組みとして、①次年度予算で示されている入学者数の目標数値を、入学試験の形態毎に過去複数年の志願者、受験者、合格者、戻り率等から勘案し設定②各オープンキャンパスからの受験者数を過去複数年の参加者から受験率を算出し、学科毎にオープンキャンパスの参加者目標を設定③各オープンキャンパス終了時には当該オープンキャンパスの増減を踏まえ目標設定の修正などおこなった。

また、入学生に対するアンケートを実施し、その分析を踏まえて特に募集媒体の見直しや、オープンキャンパスではヒアリングしづらい情報を収集し新たな募集戦略に向けた取り組みをおこなった。

学生募集全般的に一般選抜を中心としていた大学が年内入試にシフトを切ってきていること、作業療法士、臨床工学技士など社会的に職業認知度が低い問題、全般的に同系統の志願者減等の要因で学生確保が厳しくなっているため、今一度、年内入試による学生確保の募集戦略を再考していきたい。私見ではあるが、一般選抜が中心だった大学の募集戦略から募集媒体とオープンキャンパス参加者のフォローアップを中心とした専門学校の募集戦略を経て、中学校、保護者、生徒、オープンスクール参加者のフォローアップを中心とした高等学校の募集戦略へと移行していったように強く感じる。

一般的な取り組みではあるが、如何に高等学校の低学年の生徒にアプローチし藍野大学の魅力、医療職の魅力を、時間をかけ本学に対する興味・関心を高め安定的な学生募集に繋げていきたい。

昨年度、18歳人口の減少、競合他校の増加を背景に資料請求、オープンキャンパス等の反響者数の減少も顕著に現れている。本学では、高大連携の強化として高等学校と高大連携協定を締結しているが、今年度より本法人の一員となった明浄学院高等学校（普通科）との高大連携協定の強化について、教育の連続性を含めた高大接続を模索していきたい。

今後の募集戦略において、明浄学院高等学校との高大接続が安定した学生募集に繋げるための重要なポイントとなる。

一般的な高大接続の取り組み強化として、同法人内の高等学校との一貫教育の強化、他法人の高等学校との連携協定の締結など、年内入試を視野にした選抜から、接続へと高等学校と大学の学びの接続が重要な取り組みとなってきている。

本学においても今後、明浄学院高等学校との一貫教育、高大接続・連携が重要な取り組みであり具体的な検討を進めていきたい。高等学校との連携に伴う大学にとっての大きなメリットについて、大阪府下の中学校、生徒、保護者などに「藍野大学」「医療職」の魅力を低学年から時間をかけて広報することが

できる。もちろん、入試広報のように単年度の成果にはつながらないが、ブランディング広報としての効果は絶大なものがある。

明浄学院高等学校が、監督官庁（大阪府）、大阪府下の中学校・生徒・保護者から大きく注目を集めていることは今年度の入試結果からも伺える。

（入試結果）

普通科	入学定員 180 人	専願 206 人合格	併願 163 人合格
衛生看護科	入学定員 120 人	専願 153 人合格	併願 39 人合格

明浄学院高等学校は 2024（令和 6）年 4 月に、衛生看護科を設置、藍野高等学校衛生看護科の教育を継承し、大阪の中心街で新たに地域医療を担う人材養成に着手することとなった。併せて、支援契約の大きな事業である大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第一期明浄学院高等学校新校舎及びアリーナを竣工し、生徒、教職員及び明浄学院高等学校を選ばれる方々に安心して教育活動や課外活動等を提供できる教育環境の整備をおこなった。

また、学校法人藍野大学大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第二期として、2025（令和 7）年 4 月、藍野大学短期大学部第一看護学科と同短期大学部第二看護学科を統合し、大阪阿倍野キャンパスに移転し、明浄学院高等学校から藍野大学短期大学部及び藍野大学への接続を一貫教育によりを強化し、大阪阿倍野キャンパスにおける「AINO NURSE ISLAND構想」を推進していくとしている。

これに伴い、大阪茨木キャンパス事務局においては、2025 年 4 月に向け 2024 年度が事務組織体制の再編で現在の藍野大学と藍野大学短期大学部第一看護学科、専攻科を一元化した事務組織体制を新たに見直す最終年度となり、前任者の垣尾局長が取り組まれた業務の標準化、業務の効率化、業務の省力化、教務事務システムの見直しについて、継続して取り組み、業務が高度化・多様化する中、管理運営業務を担うことができる問題発見と解決策の立案・実行力を兼ね備えた事務職員の育成に繋げていきたい。

## 中央図書館の役割：市民に開かれた図書館をめざして

藍野大学中央図書館長 山田義博

昨年、中央図書館は佐々木学長の方針にそっていくつかの老朽化した設備や内装を一新して“市民に開かれた図書館を目指す”方向で動き始めている。設備更新の3年の初年度が本年であったが設備面の充実には多くの方々の努力で初年は大きな前進があり、設備面は充実してきている。ただ、本年の前進はあまり目につかないところの前進が多く、パッと見ただけではわからない。常時利用をされている先生方や学生たちは随分快適になったことが実感できるはずだ。

さて、今後は来年度から内装のうち照明や床、入口ゲート等パッとみてわかる改善が進むと期待され、2年後には茨木市で最も美しい建物の一つになると館長周囲は期待している。

市民も利用できる図書館となると、今後は広く近隣の方々に知的な（読書を中心とした）リクリエーションを提供する場となっていくわけだが、原点に立ち返って大学図書館の研究サポート機能について本年は書いておきたい。中央研究施設を中心に整備されている機関リポジトリは、以前から図書館にあったリポジトリを拡張整備するかたちで整えられている。今後も本学より発表された論文のPDFをリポジトリにも登録可能で、教員の研究活動の広報に役立つはずである。国立大学の図書館では、論文の投稿先の選び方、レファレンスの作成法、Pubmed等の論文検索のためのデータベースの利用法等についてのガイダンスや講習をアップロードしているところも多く筆者もよく利用している。本学中央図書館でも利用できるデータベースについては導入時に講習会を開いたし、図書館員も随時利用のしかたは伝えてくれている。予算の関係で、論文の全文を入手する場合は個人研究費からの支出をお願いする場面があると思うが、図書館同士の相互利用による文献の取り寄せサービスは大変お得で、雑誌社から買うと3000円程度かかる文献が相互利用により300円でコピーできた時は涙がでるほど嬉しかった。

今後は、知的なリフレッシュを味わえる場に図書館を前進させていくとともに、本来の研究サポート機能もレベルを落とすことなく充実させていきたい。蔵書数や本の収集のレベルはすでに誇れるものがあり、中身だけでなく内装が一新された中央図書館にご期待ください。

(令和6年1月15日)

